

令和7年度 事業計画

岡山理科大学附属高等学校

経済や社会の急速な変化の中で、たくましく生き抜く若者を育成するため、国を挙げて推進される教育改革の趣旨を踏まえ、本学は建学の理念である『ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出す』ことを目指し、教育プログラムを展開してまいります



現代社会では、AIをはじめとする科学技術が急速に発展し、それに伴って経済や社会の構造も大きく変化しています。このような状況に対応するため、従来の知識や技能を習得するだけでなく、未知の課題にも柔軟に対応できる思考力や判断力、さらに学びを活かす意欲を育む教育改革が進められています。この改革は、幼稚園から高校にかけて推進されており、大学入試にも反映されるようになりました。

本校は、この教育改革に沿って、生徒ひとりひとりの可能性を最大限に引き出すため、4つの教育コースでの教育活動を続けていきます。これらのコースのうち、グローバルサイエンス、総合進学とスポーツサイエンスの各コースは、独自の育成目標を持ち、加計学園の高等教育機関（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学や岡山理科大学専門学校）との連携による質の高い教育と連携大学へのスムーズな進学を確保しています。各コースは独自の育成目標を持ち、生徒たちが自分の学びを社会や今後の人生に生かせるようにカリキュラムを組んでおり、これからも生徒ひとりひとりの成長を支えていきます。また、国際バカロレア・コースは、世界で活躍する真の国際人の養成を目標に、世界標準の教育を実施しています。

通信制教育課程においては、国際的な通信制課程の要請に応えるべく、加計学園の教育資源を活用した深い学びを提供するための改革を進めています。

加計学園は、これからの社会を支える人材を育成するため、学園全体で共有する将来像に基づいた5カ年計画「加計学園ビジョン2026」を策定しています。本校もこの計画に沿って目標を達成するため、附属中学校と連携を取りながら、本年度の事業計画として、以下の項目に取り組みます。

I. 教育の推進

- 1) 加計学園全体の教育資源を有機的に活用した質の高い教育の提供と進路の開発
- 2) 世界が認めるグローバル人材を育む国際バカロレア教育の推進
- 3) 時代の要請に応える国際的な通信制教育の展開

II. 生徒の支援

- 1) 生徒の多様な資質や希望に応えるコース設計
- 2) 生徒支援・指導体制の充実

III. 地域社会との連携

IV. 国際理解と国際貢献

V. DXの推進

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

岡山理科大学附属高等学校 校長 近藤 治

I. 教育の推進

1. 質の高い教育の提供に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[1] 質の高い教育の提供に関する計画</p> <p>1) 加計学園の高等教育機関と各教育コースとの連携について、その実施方法等を評価・検討しながら推進する。</p>	<p>[1] 加計学園の高等教育機関との連携による質の高い教育の提供</p> <p>グローバルサイエンスコースの生徒を対象に、関連大学の教員による講演や授業の聴講を含むカリキュラムを引き続き実施します。生徒が大学の教育や研究に触れることで、学問的な探求への興味を深めるとともに、個々の能力や適性を発見し、自己成長を促進することを目的としています。</p> <p>さらに、進路を見出した生徒が連携大学へスムーズに進学できるよう、大学の単位として認定される連携教育制度を引き続き設けていただくことを期待します。</p> <p>また、岡山理科大学との連携をより強化するため、高大接続担当者を任命し、円滑な連携活動を推進します。特に、グローバルサイエンスコースの1・2年次に実施する「サイエンスワーク」や、2・3年次の大学研究室での活動については、大学側との緊密な協力を通じてその充実を図ります。</p>
<p>2) 新しい学力観の養成に即した教育方法や、ICTを活用した授業方法の導入を進める。</p>	<p>[2] 新しい学力観の養成に即した教育方法</p> <p>教員一人ひとりが教科教育の専門性を高め、授業の質を向上させることで、生徒の基礎・基本的な学力の定着を図ります。また、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育指導を実施し、さらに、発表や討論の時間を設け、対話を重視した協働学習を推進することで、生徒が主体的に学ぶ環境を整えます。こうした実践的な協働教育の充実を通じて、生徒の学びの質を高めることに努めます。</p> <p>[3] ICT活用教育の推進</p> <p>iPadを活用し、情報検索、学習成果や調査結果の整理、プレゼンテーションなどの学習活動を支援するとともに、Classiのコンテンツを授業や復習に効果的に活用するなど、ICTを積極的に活用した教育活動を推進します。また、ICT活用の向上を図るため、校内外の研修に参加し、整備されたインターネット環境をより有効に活用する方法を探求します。</p>
<p>3) 教育改善の効果を、大学進学や進路の開拓、各種資格の獲得などで指標化して確認する。</p>	<p>[4] 進学指導プログラムの充実</p> <p>外部テストのデータを活用し、生徒の進路目標に応じた学習到達目標を設定して指導を行います。また、データを基に生徒に適した進路選択を提案し、進学実績と統合することで、進学指導プログラムの充実を図ります。</p>

2. 国際バカロレア教育推進の目標

中期計画	事業計画
<p>[2] 国際バカロレア教育の推進</p> <p>1) 国際バカロレア教育理念や教育方法などを全校的な活動として普及させる。</p>	<p>[5] 国際バカロレア教育(IB) 理念などの全校的普及</p> <p>国際バカロレア教育5年目認定評価(2023年度)で示された指針に基づき、IB教育が目指す全人教育や教育方法を他のコースにも広めるため、授業公開やコースを越えた教科会議の開催など、全校的な取り組みを推進します。</p>

中期計画	事業計画
2) 国際バカロレア教育で大きく育つ入学生の確保を進める。	[6] 国際バカロレア教育(IB) 入学生の確保 国際バカロレア教育 (IB) への理解を深めていただくため、オープンスクールなどの機会を活用し、広報活動を積極的に展開します。また、修了段階の生徒による成果発表会を通じて、IB 教育が育成する学習者像への理解を深めていただきます。さらに、文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムの企画と連携し、普及活動を推進します。
3) 定期的な研鑽機会の確保等により、担当教員の指導力の向上を進める。	[7] 国際バカロレア教育担当教員の定期的な研鑽機会の確保 国際バカロレア機構 (IBO) が開催する教員研修会へ定期的に参加します。研修参加者との情報交換を通じて、国際バカロレア教育の考え方や教育方法に対する担当教員の理解や認識をさらに向上させます。 また、IB 教育を実施する他の学校や、IB 教員を養成する大学のコースから教員や実習生を受け入れ、授業評価や意見交換を進めます。
4) 国際バカロレアの教育方法についての校内教員研修 (他コース担当教員対象) を進める。	[8] 国際バカロレア教育担当教員による校内での教員研修 国際バカロレア教育 5 年目認定評価 (2023 年度) で示された指針に基づき、IB 教育が目指す全人教育や教育方法を他のコースにも広めるため、授業公開やコースを越えた教科会議の開催など、全校的な取り組みを推進します。([5]再掲)

3. 国際的な通信制教育の展開の目標

中期計画	事業計画
[3] 国際的な通信制教育の展開の計画 多様な学習者の学びのニーズを評価・検討し、教育プログラムの向上を進める。	[9] 国際的な通信制教育の展開 時代の要請に応える国際的な通信制教育を構築していくために、広報活動や履修者への聞き取りを通じて学びのニーズを把握するとともに、新たな学びの方法を検討・検証します。

II. 生徒の支援

1. 生徒の多様な将来像に応えるための目標

中期計画	事業計画
[4] 生徒の多様な将来像に応えるための計画 生徒が持つ将来像について、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。	[10] 生徒の多様な将来像に応えるための方策 2 年生のコース別研修や長期休業中におけるキャリア教育の一環として、職場訪問を実施します。このような多様な社会体験を通じて、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成します。 また、キャリア教育の一環として、各学年の生徒を対象に進路ガイダンスを実施し、進路情報の提供を行います。

2. 多様な生徒の支援に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[5] 多様な生徒の支援に関する計画 健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。</p>	<p>[11] 教育相談体制の充実 多様な生徒のニーズに応じた、細やかな教育指導と生活指導の充実を図ります。 生徒一人ひとりの養育歴や家庭環境に配慮し、保護者と連絡を取り合いながら、最適な指導方法を検討していきます。また、担任は必要に応じて、教育相談室や外部機関と連携をとりながら、生徒を見守ります。</p>

Ⅲ. 地域社会との連携

1. 良好な社会的関係構築に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[6] 良好な社会的関係構築に関する計画 学校行事への招待などによる地域交流、校外清掃などボランティア活動等、地域コミュニティとの関係を維持・発展させる活動を行う。</p>	<p>[12] 良好な社会的関係構築を図る方策 授業を設定せずにさまざまな活動に充てることができるコース別研修を利用し、福祉施設での活動や校外清掃活動、小学生を対象とした英語学習補助など、地域に貢献するボランティア活動を実施します。 また、家庭と協力し、県や市が主催するコミュニティ活動や地元町内会活動など、校外のさまざまな活動への積極的な参加を促し、社会の一員としての意識を醸成します。</p>

2. 地域教育の目標

中期計画	事業計画
<p>[7] 地域教育の計画 校外清掃などボランティア活動や企業の見学実習などを行う。</p>	<p>[13] 提携企業等と連携した教育の提供 コース別研修や長期休業中におけるキャリア教育の一環として、職場訪問を計画します。このような多様な社会体験を通じて、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成します。</p>
	<p>[14] 国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入 国際バカロレア教育のコアとなる「創造性・活動・奉仕」プログラムに倣い、一定のボランティア活動計画を他のコースの総合的な探究の時間に組み入れることを検討します。</p>

IV. 国際化の推進

1. 国際理解と異文化交流の目標

中期計画	事業計画
<p>[8] 国際理解と異文化交流の計画</p> <p>交流協定による教育プロジェクト、生徒の海外研修などを実施する。</p>	<p>[15] 交流協定校との交流</p> <p>異文化交流活動に積極的に取り組みます。また、留学生の受け入れも積極的に行います。</p> <p>韓国やタイなどの交流協定校との研修団の相互交流や、関連大学の留学生との交流を実施し、そのような機会に生徒が積極的に参加できるよう促します。これらの取り組みを通じて、異文化交流を推進します。</p>

2. 国際的な教育の目標

中期計画	事業計画
<p>[9] 国際的な教育の計画</p> <p>対象国での広報活動の展開と生徒の受け入れを行う。</p>	<p>[16] 国際的な教育の推進</p> <p>通信教育を通じて海外の生徒を募集する加計学園の関連校（学校法人英数学館など）と共同で広報活動を展開し、生徒の確保を図ります。</p>

V. DXの推進

1. ICT活用に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[10] ICT活用に関する計画</p> <p>ICT活用推進のためのFD実施及び各種証明書申請手続きのweb化を図る。</p>	<p>[17] ICT活用に関する方策</p> <p>ICTに関して、年間2回の教職員研修を実施します。また、高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)の採択に適合する教育体制の整備を進めます。</p> <p>各種証明書の申請手続きをWEB化するための方法を調査し、比較検証します。</p>

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

1. 学校運営の改善及び効率化に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[11] 学校運営の改善及び効率化に関する計画</p> <p>校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため、組織及び運営の改善を継続的・恒常的に実施する。</p>	<p>[18] 学校運営会議の強化</p> <p>管理職（校長、教頭、教務や生徒指導などの課長、事務長）が集まり、学校運営会議を毎週開催します。この会議では、教育課程やカリキュラム管理、生徒指導・進路指導の方針、学校行事・年間計画、予算管理・施設管理、危機管理・安全対策などについて審議し、学校運営の重要な事項を決定します。</p> <p>また、会議で協議した内容は職員会議で全校に諮り、強固な運営体制を維持・継続します。さらに、学校運営会議には附属中学校と通信制高校の教頭を招き、これら組織との合理的かつ一体的な運営を進めます。</p>

中期計画	事業計画
	<p>[19] 教科会議の強化・連携 教科会議を定期的開催し、初めて実施された新教育課程入試などへの反省点から、改善すべき内容を探り次年度への対応を行います。討議した内容は、議事録を通じて検討事項や決定事項を校長と教頭に報告します。</p>
	<p>[20] 情報共有の強化 職員会議に加えて、Classi やメール、校内情報サーバーを活用し、教職員間で緻密な情報共有を図ります。</p>
	<p>[21] 校務横断的な取組み 教員が複数の校務分掌を担当することで、業務の理解を深めるとともに、業務の分散化を図ります。</p>

2. 教育の質保証に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[12] 教育の質保証に関する計画 アクティブラーニングの導入や IB 教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。</p>	<p>[22] 教職員の資質向上への取組み 学校現場で求められるリーダーシップを向上させるために、教員には各種研修やワークショップへの参加を促し、個々のスキルアップを図るとともに、組織の一員として自己の確立へ導きます。 また、国際バカロレアの教科担当者には、定期的開催される研修や各種勉強会への参加を推奨します。さらに、外部団体が主催する教科指導に関する研修への参加も強く勧めます。 研修で得た情報は、教科会議や授業見学などを通じて教員間で共有し、普及を進めます。 加えて、教員は年度当初に教員活動全般にわたる具体的な取り組み目標を設定し、年度途中と年度末に自己評価を行うことで、教員力の向上を図る活動を実施します。</p>

3. 教育の質保証に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[13] 内部質保証に関する計画 内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価（教員活動評価）を実施する。</p>	<p>[23] 学校運営会議の強化 教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議や教科会議などを定期的開催するとともに、自己点検および外部評価を実施します。</p>
	<p>[24] 教科会議の強化 教科指導に関しては、定期的に会合を開き、課題の検討や情報交換を進めます。また、教科主任が中心となって授業研究を推進し、教科内での共有を図ります。</p>
	<p>[25] 授業評価による授業の改善 教員間で相互に授業見学を実施し、意見交換することで、授業の改善を進めます。また、生徒による授業評価を実施し、授業担当者が効果的な授業の進め方を検討します。</p>

4. 財政基盤の強化に関する目標

中期計画	事業計画
<p>[14] 財政基盤の強化に関する計画</p> <p>経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。</p>	<p>[26] 財政基盤の強化</p> <p>円滑な学校運営を進めるため、定員の確保を最優先課題とし、本校の教育への取り組みやその特徴を引き続き広報します。特に、中学校の進路指導担当者や塾教員の理解を深め、入学者を安定的に確保していきます。</p> <p>また、財政的に強固な組織を構築するため、将来を見据えた改革と選択を進めるとともに、人件費、教育研究経費、管理経費の適正化に取り組めます。</p>

主な行事予定	
4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月13日	前期入学式（通信）
5月17日	PTA 総会
7月6日	後援会総会（通信）
7月18日	全校集会
8月29日	全校集会
9月14日	前期卒業式（通信）
9月26日	体育祭
10月2日	後期入学式（通信）
10月3日	文化祭
12月22日	全校集会
1月22日、23日	選抜1期入試
2月17日	選抜2期入試
3月1日	卒業式
3月8日	後期卒業式（通信）
3月19日	終業式

学生数・教職員数

■在籍生徒数

■在籍生徒数

(令和7年5月1日現在)

課程・学科・コース名			入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
全 日 制 課 程	普 通 科	グローバルサイエンスコース	100	272	1,200	935
		総合進学コース	200			
		スポーツサイエンスコース	80			
		国際バカロレアコース	20			
	全日制課程 計		400	272	1,200	935
通信制課程 (広域) 普通科			-	-	600	194
総 合 計			400	272	1,800	1,129

(単位：人)

■教職員数

■教職員数

(令和7年5月1日現在)

校長	副校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	1	3	56	61	11

(単位：人)

財務関係

■施設設備整備計画 (抜粋)

生徒、教職員の安心安全な環境を確保できるよう、空調機の新設、更新を計画的に実施する。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
土生剣道場空調機新設工事	13,992

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
校舎エアコン更新	10,000